

春の彼岸によせて

平成十五年三月 大乘寺 住職 岡 光俊

この頃は、親孝行という言葉あまり耳にしなくなりました。親孝行についてどのように思っておられるのか、色々なかたにお伺いしました。その答えは、子供に負担をかけたくない、気を遣いたくない、生活リズムが違う、食べ物が違う、干渉されたくない、考えが合わない等、される親からもする子供からも同じような答えが返ってきました。また、親孝行を強要する親がいることも解かりました。

そこで今回は、「順」と「心」と「親孝行」について少し考えてみたいと思います。

朝目覚め、顔を洗い口を漱ぎ、神佛にご先祖さまに挨拶をし親に挨拶をし、食事を頂く。この順を弁え、生活に溶け込ませている家庭はどれほどあるのでしょうか。今の時代に合わないと思われるかたも多いでしょう。しかし、今社会で起きている、あらゆる問題の根本原因は、ここにあると思うのは間違いでしょうか？

順と心と親孝行は密接な関係があると思います。順はルール、規律を現します、皆がルールを守ると事故は最小限に止められますが、守らなければ事故がまた事故を呼びます。親が、ご先祖さまや神佛の尊さ、命の尊さを伝え、生きとし生けるものすべては、尊き役目を持ってこの世に生まれさせて頂いているのだと伝え、また、人は神佛先祖にお仕えするものだと言え、その正しい姿を毎日の生活の中で見せることが、順の始まりだと思います。

また順は、子供の成長と共に失われやすいものです。何故ならば子供は何時も親を越えようとしています。順を弁え、心が育った子はよいのですが、心の育っていない子が腕力一つでも親を越えたと思った瞬間から、すべての規準が崩れ始め暴走が始まります。暴走は三、四才から既に始まっている子もいますが、そのことを親はどれ程認識しているのでしょうか。

今皆さんの周りに日常起きていることがそのよい例ではないでしょうか。規準が崩壊すると、人といえども弱肉強食の世界、餓鬼畜生となり下がります。力弱い者、社会の落ち零れ、老人を軽視することとなり、家庭内暴力、引き籠もり、体調不良で会社を休むと自分のポストはなくなり、父親がリストラになると離婚、家庭崩壊まで至る。自己をコントロールすることが如何に難しいか、必死に生きている方々は毎日気づかれておられることでしょう。多くの人は家庭、社会、法律、約束と色々なよい決まりとご先祖さま、神佛の慈悲、人の愛情によって自己が暴走しないように守って頂いているように思えます。

自己をコントロールしてくれるものは、親に育てて頂いたほんの僅かな心の欠片です。大方はその欠片で一生を過ごしてしまいます。と申しますのは、親に育てて頂く心は十二才頃まででしょう。何故なら個人差はあるにせよこの年齢以後は、親の意見を素直に聞き入れなくなるからです。その日から心は、育っていないはずですが、そこが人間の愚かさ、体と共に心も成長していると錯覚してしまうのです。心が育っていないと自己顕示欲、金銭欲、物欲、名誉欲、食欲等人間のあらゆる欲が、そのままストレートに現れてくるのです。即ち、規準がないところに心は育たないということをお忘れなことです。体は食べ物さえ与えれば育ちますが、心は多くのよき縁に育まれないと育ちません。今の社会は、心の未熟な親が子供を育て、より未熟な心の子供が社会に対応できずに現れてきた現象だと思えます。

心の未熟さは、親に対するときにも顕著に現れます。親孝行も、親が笑い語らい、と反応があるあいだは楽しく接することができませんが、痴呆が進み、親子の認識もできなくなってくると、接することが難しく感じるかたがあるようです。このことは接する側の心の問題です。本当に親に感謝している人は楽しく接することができませんが、ご自身気づかれることはありませんが、下心のある人はその量だけ不満や要求事項が増え、解っていないのに世話をしても、仕事が大切、時間がないなどと理由を並び始めます。

このように親孝行ほど、する側の心の状態を明らかにしてしまふ行為はないと思います。それは利供養の心を厳しく受けつけないからでしょう。心が豊かでなければ、親孝行はできないということですから。またそれだからこそ、親孝行ができるかたは、親に仕えれば仕えるほど自身の心が豊かになると同時に、親と接する量だけ自分の心のなかが不足しているか、教えて頂けます。そのような繰り返しで、なかで人の心は練られ、本当に成長するものです。そして、親子の関係や時期が全て己の魂の成長のために準備されたことであると、気づかせて頂いたかたは人生の真理に出会われた幸いなかたであるといえるでしょう。心は身近な親から頂く物、またそれが神佛もお認めになる最高の心です。この素晴らしい心をご子供に与えようとし、親は我儘で、無知な親というほかないでしょう。

人の心の一生は、どのように進み成長していくのでしょうか。人は幼きときは家庭や社会、親との約束のよき規律に育まれ、心をお育て頂きます。社会でその心がどれほど未熟なものかを体験します。未熟さに気づいたかたは、自らの意志で心の成長を求め、人の道の師に教えを請われます。そこで、より気高き心を身につけ、親に心から感謝ができるようになります。そして、親のお世話をさせて頂く時期を迎え、毎日の親へのお仕えのなかで人としての心をより深く磨かせて頂き、それを社会で活用し、より無限種類の心と対応し練らせて頂くことが、心の一生の歩みと思います。

親孝行は、子孫の正しい心を深く育てることができる自然の知恵だと思えます。深い感謝と苦難に耐える心を持った子供に育てられれば、今起きているモラル崩壊、学級崩壊、家庭崩壊、引き籠もり、自殺、躁鬱病、思いやりの欠如、利己主義、等々の問題は起こらないのではないのでしょうか。

日頃の己の姿が正しかったか間違っていたか、子孫が四十才になつた頃、子孫から教えられることでしょうか。幼い力なき赤子は親が手を貸して育て、老いて力なき親は子供がお世話をさせて頂く。そして、既にこの世を去られた親に対しは、毎日尊いお経を誦誦し、月に一度はお墓に参拝する。人として最も尊い姿の親孝行です。こ

のこと一つ、心ある方は楽しく感謝の心でおこなえますが、ないかたは絶対できません。

春の彼岸のひしとぎ一時、子孫と共々、ご先祖さまの前にぬかずき、己おのれに心があるかないか今一度振り返らせて頂き、心あるかたは引き続きご先祖さまにお経を読み聞かせ、心はないと気づかれたかたはお経を頂き、心を育てていかれるよき機会とさせて頂きましょう。皆さまの子孫の方々が、心豊かな家系を築かれることが、必ず子孫繁栄に繋がることをお伝えし、ご先祖さまをお預かりし、ご先祖さまの望みを伝えお教えし、身につけられる手助けをさせて頂くことが寺の役目と心させて頂いております。共に実践していきたく、何時いつでもお気軽にご相談下さい。

ご先祖さまの成佛ぶつと子孫の心の繁栄を祈願申し上げます。

合掌